科学技術振興機構報　第１２１４号

資料5
科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会
地域科学技術イノベーション推進委員会（第6回）
H28.10.17

平成２８年９月２９日

東京都千代田区四番町５番地３
科学技術振興機構（ＪＳＴ）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL http://www.jst.go.jp

「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム」における平成２８年度採択拠点の決定について

ＪＳＴ（理事長　濱口 道成）は、平成２７年度に開始しました「リサーチコンプレックス推進プログラム」において、平成２８年度採択拠点の２件を決定しました（別紙１）。

リサーチコンプレックスとは、地域において集積している研究機関、企業、大学などがそれぞれの活動を融合させ、世界の注目を集める、異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的・統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤です。本プログラムでは、５年後、１０年後からその先に実現すべき地域の姿や社会的価値をビジョンとして描き、その実現に向けたリサーチコンプレックスの取り組みを支援し、また、地方創生にも資することを目的としています。

今回採択された２拠点は、原則として平成３１年度までの支援期間に地域内外の研究開発資源を統合的かつ有効に活用するためのマネジメントシステムを構築・運用することで、地域の優位性を最大限に活かした新事業や新産業、および雇用の創出を目指します。さらに、リサーチコンプレックスの成長・発展を通じて将来的に新たなプレイヤーを持続的に呼び込み発展する体制の構築を目標とします。

本プログラムの詳細については、下記ホームページを参照してください。
ＵＲＬ：http://www.jst.go.jp/rc/index.html

＜添付資料＞

別紙１：「リサーチコンプレックス推進プログラム」採択拠点一覧
別紙２：「リサーチコンプレックス推進プログラム」採択拠点の概要
参考１：「リサーチコンプレックス推進プログラム」の概要
参考２：「リサーチコンプレックス推進プログラム」アドバイザリーボードメンバー一覧

＜お問い合わせ先＞

科学技術振興機構 イノベーション拠点推進部　地域イノベーショングループ
〒102-0076 東京都千代田区五番町７　Ｋ’ｓ五番町
大塚 進（オオツカ ススム）
Tel：03-6272-4732　Fax：03-5214-8496
E-mail：rc@jst.go.jp

別紙１

「リサーチコンプレックス推進プログラム」採択拠点一覧

＜採択拠点＞

課題Ｎｏ.	リサーチコンプレックス名	地域	中核機関名
１	世界に誇る社会システムと技術の革新で新産業を創る Ｗｅｌｌｂｅｉｎｇ　Ｒｅｓｅａｒｃｈ Ｃａｍｐｕｓ	川崎市/神奈川県横浜市/大田区	慶應義塾大学
２	ｉ－Ｂｒａｉｎ×ＩＣＴ「超快適」スマート社会の創出グローバルリサーチコンプレックス	京都府	公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

別紙２

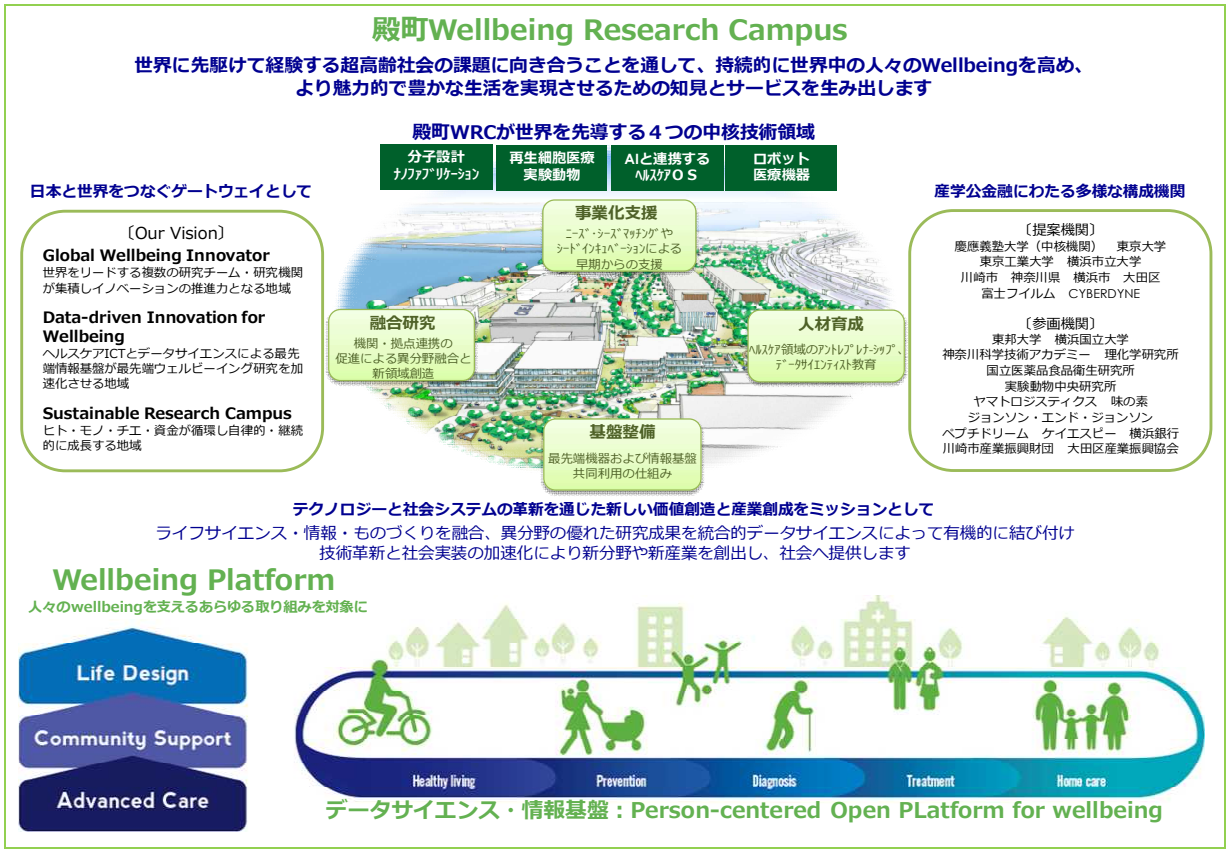
「リサーチコンプレックス推進プログラム」　採択拠点の概要−１

中核機関：慶應義塾大学
拠 点 名：世界に誇る社会システムと技術の革新で新産業を創るＷｅｌｌｂｅｉｎｇ　Ｒｅｓｅａｒｃｈ　Ｃａｍｐｕｓ

日本は世界に誇る技術とサービス、そして優れた社会システムにより、世界でトップレベルの健康寿命を実現してきました。日本が世界に先駆けて超高齢化社会へ向かっている現在、課題解決は社会の持続性という観点だけでなく、新しい価値や産業の創出という点においても、世界から注目されています。

本拠点は、ヘルスケア領域で世界をリードする多様な大学・研究機関・企業の集積性、羽田空港の対岸に位置するという国際的アクセスの優位性、京浜臨海部の企業群や首都圏の先端アカデミアと容易に連携し得る優れた地域性を活かし、持続的に世界中の人々のＷｅｌｌｂｅｉｎｇを高める先導者の役割を担い、より魅力的で豊かな生活を実現させるための知見とサービスを生み出すことを目標としています。

①分子設計・ナノファブリケーション、②再生細胞医療・実験動物、③ＡＩと連携するヘルスケア・オペレーションシステム、④ロボティクス・医療機器の４つのコア技術領域を中心に、ライフサイエンス・情報・ものづくりを融合し、その研究成果を統合的データサイエンスによって有機的に結び付け、テクノロジーとシステムの革新並びに社会実装の加速化により新分野や新産業を創出し、社会へ提供します。特に、データサイエンス・情報基盤として整備されるＷｅｌｌｂｅｉｎｇ　Ｐｌａｔｆｏｒｍは、住民・患者といったユーザー側が主体性をもつことを志向した「Ｐｅｒｓｏｎ−ｃｅｎｔｅｒｅｄ　Ｏｐｅｎ　ＰＬａｔｆｏｒｍ　ｆｏｒ　ｗｅｌｌｂｅｉｎｇ」であり、データサイエンスならびにＡＩやＩｏＴといった新時代のテクノロジーとの相乗効果によって、効果的に情報を活用できる環境を実現し、人々のｗｅｌｌｂｅｉｎｇを支えるあらゆる取り組みでのイノベーションを牽引する役割を果たすべく、全力をあげて取り組みます。



「リサーチコンプレックス推進プログラム」採択拠点の概要−２

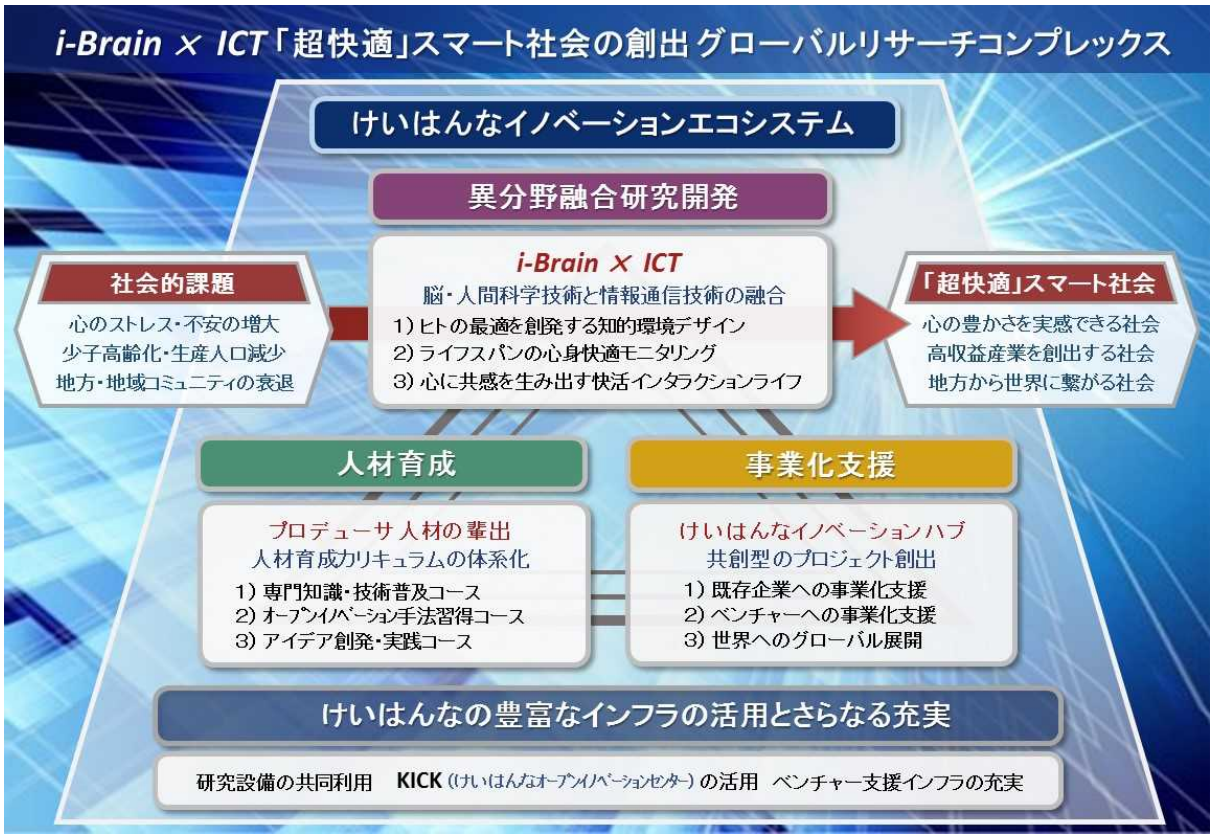
中核機関：公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構
拠 点 名：「ｉ－Ｂｒａｉｎ×ＩＣＴ　「超快適」スマート社会の創出グローバルリサーチコンプレックス」

現在の日本はさまざまな社会的課題を抱えています。特に、人口減少に伴う社会全体の閉塞感が大きな課題であり、少子高齢化・労働人口の減少による活力低下、地方の衰退、市場縮小による経済活動の停滞が生じています。このような時代背景の中で、人々は「モノの豊かさ」より「ココロの豊かさ」を求めるようになっています。この「ココロの豊かさ」を実現するのが、『「超快適」スマート社会』であり、心に感動・活力・共感を生み出す社会の創出が目標です。

「けいはんな」のリサーチコンプレックスでは、ｉ－Ｂｒａｉｎ（脳・人間科学技術）とＩＣＴ（情報通信技術）を技術開発のコアと捉えています。ｉ－Ｂｒａｉｎはヒトの心理・行動・脳・生体情報データ解析に基づいてココロを定量的・客観的に捉える技術群を指し、これにＡＩ、ビッグデータ解析、ＩｏＴなどの最先端ＩＣＴを融合し、「ココロの豊かさ」を創出する技術開発を目指します。この技術開発により社会課題の解決を図ると共に、新たな事業を創生して経済活動の活性化に寄与していきます。

具体的な研究開発の取り組みとして、①オフィスにおける知的生産性向上、病院・介護現場でのストレス緩和などをもたらす知的環境デザイン、②赤ちゃんから高齢者に至る各ライフステージの心身快適モニタリングによる衣食住イノベーション、③非言語コミュニケーション技術によるヒトの心に寄り添う次世代ロボット・次世代遠隔コミュニケーションシステムの開発、を掲げています。

これらの技術開発に加えて、プロデュースマインドを持った人材の育成、大学・研究機関・大手・中堅・中小企業・ベンチャー・地域住民の共創によりイノベーションの連鎖を自律的に引き起こす「イノベーション・エコシステム（生態系）」の構築に取り組み、「人が渦巻くけいはんな」、「高収益事業が生まれるけいはんな」、「世界へ飛翔するけいはんな」の実現を目指します。



参考１

「リサーチコンプレックス推進プログラム」の概要

１．　プログラムの目的

世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム（以下、「本プログラム」という）は、平成２７年度に新しく始まった支援事業です。

本プログラムは、地域に集積する産・学・官と金融機関が共同で５年後、１０年後からその先に実現される地域の姿と社会的価値をビジョンとして描き、国内外の異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的かつ統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤としてのリサーチコンプレックスを成長・発展させ、地方創生にも資することを目的として実施します。

２．プログラムの内容

本事業の概要は以下の通りです。

（１）支援内容

ＪＳＴは、リサーチコンプレックスの成長・発展を促す５つの事業ツールに対する活動を支援します。

採択拠点は、中核機関を中心とし、そこに集積する大学・研究機関や企業などが①異分野融合共同研究開発、②事業化支援、③最先端研究設備の共同利用、④人材育成・共同カリキュラム、⑤推進体制強化の５つの事業ツールを全て活用して研究・事業活動を融合するとともに、リサーチコンプレックス内の交流や情報交換を活性化させ、世界の注目を集める研究・事業の創出、人材の輩出が一体的に実施できる体制の構築、またリサーチコンプレックスを自立的かつ連続的に成長・発展するメカニズムの構築を目指します。

（２）実施方法

公募により中核機関（大学、公的研究機関及び都道府県又は政令指定都市が運営・設立に深く関与する法人）から提案を募り、ＪＳＴが支援する法人を選定します。選定された法人とＪＳＴが委託契約を締結し、事業を推進します。

（３）支援期間

原則として平成３１年度まで（ＦＳ期間中を含め最長５年度）

（４）支援額

最大７億円／拠点・年

３．選定方法

（１）アドバイザリーボード

本事業の評価は、ＰＯ１名とアドバイザー８名で構成する「リサーチコンプレックス推進プログラムアドバイザリーボード」（参考２参照）が行いました。必要に応じて、研究分野の専門家として、専門委員の意見も参考としました。

（２）評価の手順

平成２７年度に、形式審査、提案書の査読による書類審査、サイトビジット、提案者のヒアリングによる面接審査の４段階を経て採択拠点（本採択１拠点、フィージビリティ（ＦＳ）３拠点）を選定しました。平成２８年度のＦＳ３拠点の再審査は、再提案書の査読による書類審査、提案者のヒアリングによる面接審査の２段階にて実施しました。

（３）採択における評価項目

①ビジョン
②目標と計画
③推進体制及び運営方針
④資金計画
⑤リサーチコンプレックスの成長・発展のための方策

以上

参考２

「リサーチコンプレックス推進プログラム」
アドバイザリーボードメンバー一覧

ＰＯ	氏名	所　　属	役職
○	結城 章夫	山形大学	名誉教授 （前　学長）
	伊地知 寛博	成城大学 社会イノベーション学部	教授
	受田 浩之	高知大学	副学長 （地域連携担当）
	大塚 玲奈	株式会社エコトワザ	代表取締役
	津田 紘	公益社団法人静岡県国際経済振興会	会長
	出川 通	株式会社テクノ・インテグレーション	代表取締役
	西澤 民夫	日本エスアンドティー株式会社	代表取締役
	野長瀬 裕二	摂南大学 経済学部	教授
	野々村 俊夫	独立行政法人中小企業基盤整備機構 四国本部	ものづくり支援 チーフアドバイザ

（所属機関、役職は平成２８年９月２９日時点）